

津波注意報が発令されました

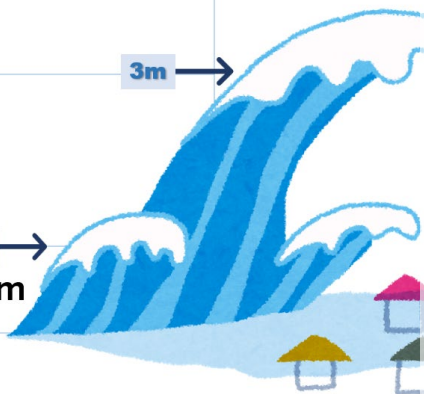
12月2日（土）の日本時間 23 時 37 分、フィリピンのミンダオ付近でマグニチュード 7.7 の地震が発生。この影響で、太平洋沿岸各地に津波注意報が発令され、伊豆諸島の八丈島で 40 センチの津波を観測したほか、九州から関東にかけての太平洋沿岸や奄美地方などにも津波が到達しました。

津波注意報は翌 3 日の 9 時にはすべて解除されましたが、日本中に不安が押し寄せました。

この機会に、津波警報の分類と、津波浸水の高さと死亡率についてご紹介します。

津波警報・津波注意報の分類

分類	予測される津波の高さ
大津波警報	3 m 以上
津波警報	1 m ～ 3 m
津波注意報	0.2 m ～ 1 m



津波浸水の高さと死亡率

浸水の高さ	死亡率
100cm	100%
70cm	71.1%
50cm	4.1%
30cm	0.01%

津波は、通常の波（風浪）とは異なり、数分から数十分大量の海水が押し寄せ、数分から数十分引くという押し引きを繰り返します。津波が陸上を襲った場合、人や建物を押し流し、風景を一変させる程の被害をもたらすことがあります。

津波は水だけではなく、様々な種類の巨大な固形物を含んでおり、津波に巻き込まれるとそれらの固形物が身体に衝突するため、救命胴衣を付けていても死から免れる可能性はきわめて低いと言われています。

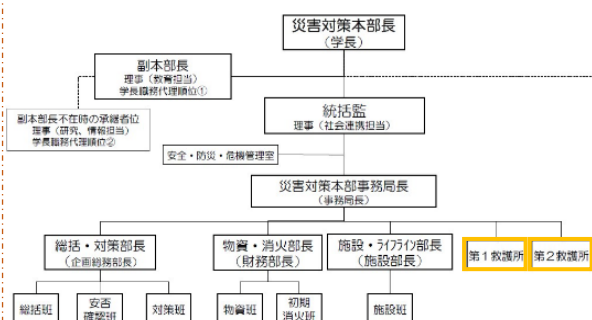
知っていましたか？

災害時は学内に救護所が設置されます

防災マニュアル「三重大学津波避難基本計画」では、津波発生時には 2 か所の救護所を設置することが定められており、第 1 救護所は総合研究棟ⅡB 棟 4 階、第 2 救護所は看護学科棟 4 階に設置されます。

救護所で処置をする対象の傷病者は軽傷者で、意識が低下している者や介助なしで 4 階まで上がれない者は重症として当院に搬送されることになっています。

三重大学災害対策本部の組織編成

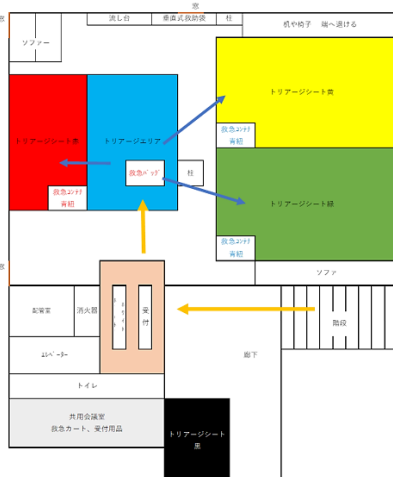


令和 5 年度全学津波避難訓練時の各救護所 編成表

第 1 救護所	第 2 救護所
医師 1 名（保健管理センター）	医師 3 名（医学部）
看護師 保健師 3 名（保健管理センター）	看護師 6 名（看護学科）

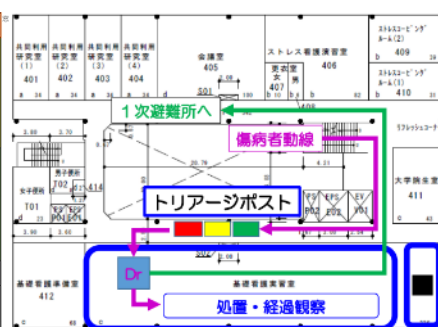
第 1 救護所レイアウト

総合研究棟ⅡB 棟 4F



第 2 救護所レイアウト

看護学科棟 4F（基礎看護実習室）



処置・収容エリア



Face

三重大学 看護学科長
栢屋 正浩 です

第2 救護所の設営・運営を通して、救護所全体の活動状況を
集約するクロノの重要性と俯瞰的視点を持ち、時々刻々変化
する救護所組織を運営できるリーダー育成、並びに各部署独自の
災害時活動マニュアル作成の必要性を痛感しました。

この iPad で何ができるの？



実際の画面は
このように
表示されます！

当センターでは、昨年「disaster scope」を導入しまし
た。これは、実風景映像に 3D-CG の水面を重ねて表示
し、タブレットを使用することでリアルな災害想定没入体験を
可能にしたものです。

市民公開講座や小学校での講演、防災訓練時の演習に
て活用しており、「リアルで怖かった」、「再現度がすごい」など
と、大活躍です。

Topics 11/28 全学津波避難訓練

第2 救護所開設・運営訓練が行われました

11 月 28 日（火）全学津波避難訓練が行われ、医学部部局隊が第2 救護
所開設・運営訓練を行いました。医師・看護師や大学教員、学生など約 30 名が
参加し、救護所の開設から患者のトリアージ、応急手当の訓練を行いました。



傷病者のトリアージ



バイタルサイン測定・診察



三角巾固定



シーンによる足首固定

Column

応急手当 三角巾固定の方法

三角巾の使い方－腕の骨折編－

けがをした所



1 けがをした方の肘を曲
げ、その下に三角巾を
このように当てる



2 下の角を持ち、けが
をした腕と同じ側の
肩に持って行く



3 首の後ろで、三角巾
の端と端を結ぶ



4 けがをした腕の肘
の部分で結ぶ



5 指先が見えるように
三角巾を少し折り返す

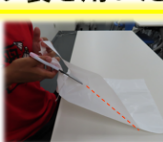


6 できあがり

持ち手つきポリ袋を用いた三角巾の作り方



1 ポリ袋の両側の谷部分を切る



2 ポリ袋の両側の谷部分を切る
(横から見た写真)



3 実際に切った後の様子



4 ポリ袋の底面に腕を
乗せるように通す



5 持ち手部分をまとめて
頭をくぐる



6 ポリ袋と手の位置を調整して
固定完了

だれでもできる！

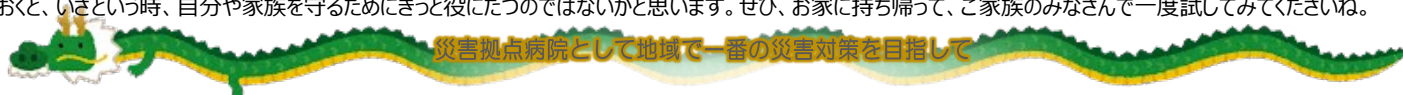
- 関節ではないところで変形し、明らかに骨折とわかるとき
手、足が関節ではないところで曲がって変形している場合は、高い確率で骨折です。固定が絶対に必要なケースです。
- 変形が見られないが、骨折の疑いがあるとき
変形していない場合は、骨折かどうかの診断は難しいです。「酷い腫れがある」、「痛みで手や足を動かせない」、「足をついて歩けない」などの症状があれば、骨折の可能性がありますので、固定を行いましょう。
固定することで、痛みが改善したり、動けるようになったり、搬送時の疼痛が楽になったりします。
- 骨折でなくても、固定が望ましいとき
骨折の可能性に関わらず、安静にしているのに痛みや腫れがある場合にも、固定で症状が軽くなるのであれば、固定をしましょう。打撲や捻挫でも、安静と固定で改善効果が期待できます。
また、災害時には逃げたり、移動したりする必要があるため、固定することで移動がスムーズになるならば、迷わずそうしましょう。

固定について整形外科
浅沼先生からアドバイスを
いただきました



Center Message

今回は、コラムで応急手当についてご紹介しました。ポリ袋が三角巾の代わりとなることに、驚かれた方もいるのではないのでしょうか。こういったことをひとつでも知って
おくと、いざという時、自分や家族を守るためにきっと役にたつのではないかと思います。ぜひ、お家に持ち帰って、ご家族のみなさんと一度試してみてくださいね。



災害拠点病院として地域で一番の災害対策を目指して